

宝物庫および記録

高さ 3 メートル以上、重さ 820 キロもあるこの巨大な宝塔は、1197 年に鑄造されました。この塔の内部にある水晶は 5 輪の塔（五輪塔）で、それぞれ地水火風空を象徴する輪が昇順に並んでいます。五輪の塔の中には、重源（1121～1206 年）が中国から持ち帰ったブツダの遺骨が納められています。ブツダの遺骨を礼拝する行為（舍利信仰）は、阿弥陀寺の創設者である重源が中国から持ち帰った新種の宗教行為の 1 つです。塔そのものは、日本で活躍していた中国の工人、陳和卿（ちんなけい）に学んだ鑄師たちの手によるものです。

基壇の四方全部の側面に銘文が陽鑄されています。中央に大きく陽鑄された梵字（ぼんじ）は、羅針方位を意味しています。日本語の銘文の方は、阿弥陀寺造立の趣旨と造立紀年のほか、寺の所在地、寺を構成する 7 つの建物、主要設備（風呂のお湯加熱用の釜など）、後白河法皇の安穩を祈る祈祷文、重源の名前、その他の地元の有力な役人の名前が記されています。

この塔は日本で最も古い鉄宝塔です。卓越したレベルの職人技、そして阿弥陀寺の歴史が記された貴重な記録、という歴史的価値の高さから、1954 年に国宝に指定されました。